

第87回教養講座

日時：令和元年7月16日（火）13:00～15:00  
場所：図書館南閲覧室 又は 階段教室  
講師：おくだ健太郎氏（歌舞伎ソムリエ）  
演題：「歌舞伎入門」（仮）  
内容：初心者に対して歌舞伎の魅力、見方について解説していただくとともに、このような職業に至った過程をお聞きする。

講師略歴：1965年名古屋市生まれ。

私立東海中学・高校をへて、早稲田大学政治経済学部（経済学科）入学で上京後、アメリカでの生活を経て、歌舞伎にのめりこむようになる。歌舞伎の前は、ジャズに熱中していたが、アメリカ（ロスアンゼルス）で出会ったジャズの研究家の、自国の音楽文化をこよなく愛し、仕事としてそれに取り組む姿勢や人柄に大いに刺激を受けた。

大学卒業後、歌舞伎公演のイヤホンガイドの、貸出しカウンターのスタッフとしてアルバイト入社。業務をつづけるうち、ガイドの書き手・語り手を志すようになり、テスト原稿を提出。数度の改筆の後それが認められて。

1992年12月、東京・国立劇場で上演の新作脚本の歌舞伎「忠度」にて、イヤホンガイド解説者としてデビュー。その後数年、貸出し業務とイヤホンの解説者を並行して行い、1997年、解説者として一本立ちする。NHKハイビジョン初期の番組「歌舞伎バラエ亭」に出演。故加藤武をシェフ、水谷彰宏アナウンサーをギャルソン、おくだをソムリエ、にみたてて「歌舞伎の食わずぎらい」をなくそう、というコンセプトでつくられたこの番組出演をきっかけに、歌舞伎ソムリエ、という呼称を、その後も継続して用いるようになる。

2000年からは、かつてのアルバイト先である銀座「樹の花」と、お店の客として長年親交のあった、目白のカフェ「ル・プティ・ニ」にて、歌舞伎のトーク会をはじめ。当初は「歌舞伎をたのしむ会」と名付けていたが、その後いつのまにか「おくだ会」という呼び名が定着し、正式名称に。歌舞伎座の改築工事や「ル・プティ・ニ」の軽井沢への移転を受けて、いったん中断するも、再開。「樹の花」と、「ル・プティ・ニ」のあとを引き継いだ「カフェ・ドゥ・ルー」の2か所にて、いまもほぼ毎月、継続している。